

【博士後期課程入学から博士学位申請論文提出までの流れ】

I. 各ステップでの留意事項：(I. II. は161ページの流れ図に対応)

- ① 4月に提出した「研究題目」を敷衍したもの。A4で2枚程度。
- ② 「博士論文指導委員会」の構成員(指導教員1名、副指導教員1名ないし2名)の選任は分科会が行う。
- ③ 具体的には、指導教員の指導のもと、修士論文をまとめる形で青山フランス文学会の『論集』や大学の紀要等に発表したり、学会・研究会等で発表したりする。
- ④ 展望はA4で5枚程度。
- ⑤ 承認された学生には指導教員がその旨伝え、博士学位申請論文の執筆に取りかからせる。
- ⑥ 「提出予備資格」を得た学生は指導教員の指導を受けながら、青山フランス文学会の『論集』、大学の紀要、学会誌、学術誌等に論文を発表したり、学会・研究会等で発表したりする。
- ⑦ 指導教員に申し出る期日は、毎年度6月末とする。
- ⑨⑩ 3月末の学位授与から逆算すると夏休み前に博士学位申請論文を提出することが望ましい。

II. その他の留意事項：

- 1) ・博士学位申請論文(課程博士)は、入学時から起算して、在学期間の通算6年以内(実質は5年+3ヶ月程度)に提出するものとする。休学期間(3年を限度とする)は在学年数に含めない。
・3年以上在学して退学した場合は、入学時から起算して(休学も含めて)6年以内(実質は5年+3ヶ月程度)に、再入学の願い出を添えて博士学位申請論文を提出することができる。
 - 2) Master2(またはDEA)取得済みの学生は⑥から始めるが、Master2(またはDEA)取得論文に展望を添えたものを提出することとする。提出時期、展望の枚数などは④に準ずる。
- 付記 上記の申し合わせは2005年4月1日時点で博士後期課程に在籍する学生から適用される。

